

tag	ID	タイトル	英文タイトル	主オーガナイザ	副オーガナイザ	email	概要	セッション数 (×90分)	分野	公募	ポスター
環境	1	低炭素低炭素社会構築のための都市・交通政策（1） －その評価と戦略－	Urban and transport policy toward low-carbon society - Evaluation and strategy -	加藤博和・名古屋大学大学院環境学研究科		kato@ge.nv.nagoya-u.ac.jp	交通活動に伴う二酸化炭素発生量は人為起源合計の約4分の1を占める。そのため、低炭素社会実現のために、それに大きな影響を及ぼす都市・交通システムに関する施策の確立と実施が求められており、土木計画学分野として重要な課題である。本セッションでは、関連研究である、都市・交通システムの二酸化炭素排出量推計および削減策評価手法、低炭素都市・交通システム実現のための政策提案及び検討、途上国における展開方策などに関する研究発表を題材として、今後の研究の方向性を議論する。	2	速報的・萌芽的	有	無
環境	2	低炭素社会構築のための都市・交通政策（2）－都市交通モデルによるアプローチ－	Urban and transport policy toward low-carbon society - Urban transport modeling approach -	奥嶋政嗣・徳島大学	秋山孝正・関西大学	okushima@eco.tokushima-u.ac.jp	持続可能な低炭素社会をめざして、交通分野における各種の方策を検討する。ハイブリッド車、電気自動車などの普及と交通運用、自動車交通と公共交通の関係、道路交通運用と低公害化などの都市交通政策の有効性を議論する。このため、交通分野における的確な二酸化炭素排出量の推計、低炭素社会の複雑現象のモデル化、都市道路網計画における低炭素指標の構成など多方面からの問題提起を行う。また具体的な解析技術として、社会の複雑性を考慮した知的情報処理技術の利用が考えられる。このように、低炭素社会の現実的な交通政策の提案を行うとともに、今後の都市交通の変化に対応した有効な問題解析技術について議論を行いたい。	1	速報的・萌芽的	有	無
環境	3	低炭素社会構築のための都市・交通政策（3）－実務・技術者による実践的取り組み－	Urban and transport policy toward low-carbon society - Practical approaches -	尹 鍾進 京都大学大学院工学研究科 特定准教授	大庭哲治 京都大学大学院工学研究科 助教	j.yoon@upl.kyoto-u.ac.jp	環境負荷が少なく、都市の魅力と活力を維持し、商業や観光の振興も含めた都市圏政策を進めるためには、都市の将来ビジョンを描きながら、当面する課題に相応しい政策手法を実行していくことが求められている。そこで、本セッションでは、以上の認識の下、地域の課題解決に向けて行政や交通事業者、NPO等が連携して取組んだ分析調査や独自の工夫事例、施策等に関する研究成果の発表・討議を行う。	1	実務・技術者課題分野	有	無
環境	4	環境に配慮した自動車交通と関連動向	Eco-driving	松本修一・慶應義塾大学	森 健二・科学警察研究所 坂井康一・国土技術政策総合研究所 松本修一・慶應義塾大学	mori@nrips.go.jp	2009年6月には2020年までに温暖化ガスの排出量を2005年比で15%減という中長期目標が発表された。日本の二酸化炭素排出量内訳を見ると、運輸部門の排出量が全体の20%を占めており、その大半を自動車から排出している。このような状況の中で、自動車から排出される二酸化炭素削減の手法としてエコドライブや二酸化炭素を排出しない電気自動車が注目されている。 本セッションでは、国内各地で行われているエコドライブ、電気自動車およびその周辺施策に関する実務および研究に関する最新の取り組みを紹介し、今後の地球温暖化対策のための交通に関する方向性を議論する。	2	実務・技術者課題分野	有	無

環境	5	安全でエコなラウンドアバウト	Roundabout: having safe and eco-friendly benefits	高瀬達夫 (信州大学)	浜岡秀勝 (秋田大学)	ttakase@shinshu-u.ac.jp	日本においては、無信号、信号交差点で出会い頭などの致命的事故が後を絶たない。安全で効率的な運用が可能な平面交差点の制御方式を、道路交通条件に応じて科学的・技術的に十分検討する必要がある。一方、同様の問題意識に対して欧米豪では、ラウンドアバウトを積極的に導入している。こうした状況のもと、日本においても長野県飯田市にてラウンドアバウトの社会実験が実施されたことや、寒冷地における導入方法の検討など、実用展開に向けた様々な動向がみられる。本企画では、ラウンドアバウトの認知、計画、設計、交通運用、広報についての制度・実証・工学的研究の成果を募集し、実務上のさらなる展開方策や課題について集中的な討議を行う。	2	集中討議分野	有	有
環境	6	家庭・運輸部門におけるエネルギー消費と温室効果ガス排出	Energy Consumption and Greenhouse Gas Emissions from Domestic and Transport Sectors	Sudarmanto Budi Nugroho・広島大学大学院国際協力研究科	張 峻屹・広島大学大学院国際協力研究科	sbntotok@hiroshima-u.ac.jp	経済発展や都市の成長に伴い、家庭・運輸部門のエネルギー消費は増大傾向を辿っており、様々な対策をとってもなかなか減らない。その結果、温室効果ガス排出量の増加や都市部での大気汚染の悪化を招いているだけではなく、エネルギー危機も引き起こしつつある。このような現象は先進国・途上国を問わず観測されている。これらの問題を解決するためには、生産・生活スタイルを見直し、省エネに力を入れ、エネルギー源の多様化・可持続化・再生可能化を図ることが求められる。本セッションでは、家庭・運輸部門を対象に、エネルギー消費と温室効果ガス排出の実態分析、関連政策立案のための方法論の開発や削減策等に関する調査・研究の報告を募集する。	2	集中討議	有	無
自転車	7	自転車走行の安全・教育・利用促進等のためのソフト施策	Policy for traffic safety, education, promotion of bicycle riding	元田良孝 岩手県立大学	宇佐美誠史 岩手県立大学	motoda@iwate-pu.ac.jp	歩道走行を主体とする日本の自転車交通は限界に達しており、事故件数の下げ止まり、歩行者対自転車事故の急増、高齢歩行者からのクレームなど解決すべき問題は多い。自転車走行空間の整備は急務であるが、ハードの整備と同時にソフトの整備も行わなければ効果を発揮しない。ここでは自転車走行に関するソフト施策について議論を行う。対象とする分野はハード施策を除く交通安全、保険制度、法制度、安全教育、自転車交通計画、交通需要推計、自転車と健康、モビリティマネジメント、コミュニティサイクルなどである。ただし駐輪問題・対策を主テーマとする論文は対象としない。	1	実務・技術者課題分野	有	無
自転車	8	自転車政策・計画の制度と実例	bicycle policy and planning system	屋井鉄雄 東京工業大学	吉田長裕 大阪市立大学	yoshida@civil.eng.ou-saka-cu.ac.jp	近年、世界各都市では、環境や健康問題を背景として、自転車が都市交通手段として見直され、関連する様々な施策が展開されつつあります。自転車を考慮した持続可能な都市交通を実現するためには、みちづくりやまちづくりなど影響範囲が広範に及ぶため、既存の政策や計画制度に関わる諸課題を整理しつつ、実現可能性について理解を深める必要があります。また、自転車のパフォーマンスを十分に引き出すためには、政策の中身についても議論する必要があります。そこで本セッションでは、国内外における自転車政策・計画制度、その展開方法も含めた実例、それらを構成する目標設定やネットワーク計画等に関わるテーマについて集中討議します。	1	実務・技術者課題分野	有	無
自転車	9	自転車走行空間の整備とその評価	Practice and Evaluation of Bicycle Friendly Streets	山中英生 徳島大学	金 利昭 茨城大学	yamanaka@ce.tokushima-u.ac.jp	モデル事業や社会実験などで多様な自転車走行空間整備の検討が進められています。本セッションでは、こうした整備事例の評価を行った研究論文によって構成します。特に、課題となっている交差点の設計、構造変化部分の処理、断面構造の安全性評価などのテーマについて集中して討議します。	2	実務・技術者課題分野	有	無

パーソナル交通	10	新たな交通手段としてのPT（パーソナルトランスポーター）の利用可能性	Availability of Personal Transporters as a New Transportation Mode	轟朝幸・日本大学	西内裕晶・日本大学, 石坂哲弘・日本大学	todoroki.tomoyuki@nihon-u.ac.jp	本セッションでは、セグウェイやトヨタ・i-real等に代表される、近年開発された新たなノリモノであるパーソナルトランスポーター（PT）の新たな交通手段としての活用方法について議論を行う。わが国におけるPTの位置付けは、つくば市におけるロボット特区が設定されている以外は、公道におけるPT走行は認められていないのが現状である。その限られた制約の中で、新たな交通手段としてのPTの役割や走行特性を検討した研究成果を基に、今後のPTの活用可能性等について幅広い議論を行う。	1	速報的・萌芽的	有	無
歩行者	11	歩行者行動分析の展開	Advances in Pedestrian Behavior Analysis	福田大輔・東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻	羽藤英二・東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻	fukuda@plan.cv.titech.ac.jp	歩行は、人間の最も基本的な交通行動である反面、その自由度の高さから、分析が困難な交通行動である。近年、Social Forceモデルや離散選択モデル等の方法論の展開が顕著である。データに関しても、動画解析技術の進展による精度向上や、プローブ・パーソンによるメソスケールでの回遊行動の把握等が可能になっている。政策分析においても、避難や混雑のような従来扱われてきた課題に加えて、より微視的な空間設計や、市街地や商店街活性化のような課題においても、歩行者行動分析が貢献する可能性は大きい。本企画では、モデル・データ・政策分析と言った諸点から歩行者行動分析の今後の展開を議論すべく、関連する研究論文を募集したい。	2	速報的・萌芽的分野	有	無
地方行政	12	地方自治体行政の技術経営	management of technologies for local government administration	秀島栄三・名古屋工業大学	谷本圭志・鳥取大学	hideshow.eizo@nitech.ac.jp	地方自治体が抱える行政課題を自治体職員が主体となって解決する時代になっている。これに関して、工学技術やシステムズアプローチに基づく土木計画学での研究蓄積に期待が集まるが、現場での適正技術とするためには、現実の行政課題への適合性の向上や自治体職員に理解されるような簡略化など、新規の技術開発や既往技術の改善、実践を通じたフィードバック的な検討を十分に行うことが求められる。本セッションでは、地方における自治体の行政経営を支援するための技術に着目した発表を求め、それらの現実的な可能性について討議を行うこととしたい。発表者は実務者が否かを問わないが、地方自治体職員の発表も歓迎する。	2	集中討議	有	無
地方交通	13	多様な主体の参画による地域モビリティの確保施策	Effective instruments to promote comprehensive actions and measures for ensuring local mobility by the participation of various stakeholders	高橋総一 国土交通省政策統括官付参事官	田村亨 室蘭工業大学 教授	kobayashi-h2aq@mlit.go.jp	地域のモビリティの確保は、地域の活力の維持・向上について最も有効な手段の一つであるものの、景気低迷、過疎化、少子高齢化などにより、特に地方におけるモビリティ確保は悪化の一途をたどっている。従来の交通事業者や行政のみに依存した地域モビリティの確保がますます厳しい状況になる中で、多様な主体（行政、利用者、地域住民、事業者、企業、NPO等）が参画、連携しながら地域モビリティを確保していくことは、今後重要な課題となってきた。そこで、本セッションでは、以上の認識の下、地域の課題解決に向けて多様な主体の参画・連携をベースに地域モビリティを確保していくための取組みに係わる分析調査や評価手法、独自の工夫事例、さらに施策支援ツール等に関する研究成果の発表・討議を行う。	2	実務・技術者課題分野	有	無
地方交通	14	地域公共交通計画における住民などが運営する交通の将来像	Penetration of transport operated by resident self-governance in Local transport plan	猪井博登・大阪大学	山田稔・茨城大学	inoi@civil.eng.osaka-u.ac.jp	住民が運営するバス交通、過疎地有償運送、福祉有償運送など、地域交通の計画のみならず、運営に住民が参加する事例が増加している。これら地域交通の取り組みでは、移動性の確保のみならず、運営側の住民組織のソーシャルキャピタルの増強などの効果も期待される。一方、交通基本法が制定された場合、移動性の確保のため、行政負担による公共交通の展開が予測され、住民主体による地域交通の衰退が危惧される。以上の背景のもと、本セッションでは、住民主体による地域交通を組み込んだ地域交通計画のあり方について議論する。また、住民のソーシャルキャピタルの増強も期待した地域活性化の取り組みとの融合など戦略についても議論を行いたい。	1	集中討議	有	無

動学	15	動学的インフラ管理戦略	Dynamic Strategy of Infrastruc	横松宗太・京都大学防災研究所	石倉智樹・東京大学大学院	yoko@drs.dpri.kyoto-u.ac.jp	インフラストラクチャーの管理は長期間に亘って実施されるため、その計画には動学的視点が不可欠である。本セッションでは単一の土木施設からネットワーク化されたシステム、また環境資源など様々な種類のインフラ管理を対象に、状態の計測や新設、維持補修、再生などの方法やタイミングについて議論する。また高齢化や財源縮小、技術進歩やさまざまなリスクの増大など、社会経済的環境の長期的変化を考慮に入れた、インフラのマネジメントやガバナンスについて理論的・実証的に討議する。	1	集中討議分野	有	無
人口減少	16	人口減少とインフラ整備	Population decline and infrastructure development and management	植村哲士 野村総合研究所	北詰恵一 関西大学	E-mail:uemura@nri.co.jp	人口減少、財政難に苛まれている日本において、近年、インフラ整備の財源の削減が更に進み、将来的にインフラの維持管理が適切に行えるのか危惧される状況になりつつある。既に、一昨年、昨年と、人口減少がインフラ整備に与える影響について議論してきたが、本年も引き続き、同じテーマで報告を募集し、議論する場を提供する。	2	集中討議	有	無
コンパクトシティ	17	安全・安心の視点からみた集約型都市構造	Compact City from a Viewpoint of Safety	木梨 真知子 (茨城大学)	森本 章倫 (宇都宮大学)	kinashi@mx.ibaraki.ac.jp	中心市街地や交通結節点周辺に都市機能を集積し、都市郊外化や人口流出を抑制することで持続可能なまちづくりを目指す集約型都市は、現在、国や多くの自治体で主要な政策目標の一つとなっている。その際の視点は、環境負荷や都市財政などのマクロなアプローチが主となっている。しかしながら、生活者の視点から考えれば、防災・防犯、交通安全、バリアフリー等の安全・安心の観点から集約型都市についての理論的な考察を深めることが必要となる。本セッションでは、環境負荷や都市財政以外の、生活者の視点から新たに集約型都市を捉えなおし、集約型都市構造構築の実現性と今後の方向性について議論することを目的とする。	2	集中討議	有	無
都市内交通	18	LRTを活かしたまちづくり	Urban renewal with light rail system	塚本直幸・大阪産業大学人間環境学部生活環境学科教授	伊藤 雅・広島工業大学工学部都市デザイン工学科准教授	naoyuki@due.osaka-sandai.ac.jp	人口の減少と急激な少子・高齢化の進展、地球環境問題の深刻化などに対応するためには、自動車に過度に依存した分散型のまちづくりには限界があると言わざるを得ない。これからは公共交通を中心に歩くことが最優先される都市、便利でアメニティの高い都市、環境負荷が低減された持続可能な都市を創り上げることが重要な課題となっている。本企画セッションでは、欧米の多くの都市でこうしたまちづくりの切り札として導入が進んでいるLRTに着目して、LRT導入の理念や意義、導入に向けての合意形成の仕組み、整備運営のための諸制度、道路空間の再配分問題、交通行動やまちづくりへの多様な効果とその評価方法などについて、集中的に討議したい。	2	集中討議	有	無
都市内交通	19	都市空間における「人の流れ」のニーズとシーズ	Needs and seeds of people flow in urban space	東京大学・空間情報科学研究センター・特任准教授 関本義秀		sekimoto@csis.u-tokyo.ac.jp	近年、交通・防災・観光・マーケティングの分野などでは、都市空間でダイナミックに変化する人々の流れを俯瞰したいというニーズが官民間問わず見られるようになってきている。しかし、研究者の視点から見た場合、新しい技術を活用すればもっと低コストあるいは迅速にデータを取得できるのでは？とか、なぜこのデータはもっとこんな有効な使い方をしないのかといった素朴な疑問があるかもしれない。そこで本企画では、行政実務者、大学研究者、民間技術者等、様々な立場から「人の流れ」に関する研究を自由に発表して頂き、ニーズとシーズの分析や現在の課題認識を共有したい。具体的には、1) 都市全体、駅周辺レベル、施設内などでの人の流れの再現事例、2) 効率的な位置の取得・モデリングやデータ処理手法、3) 国際的な動向、標準化、官民連携などの協力事例を想定している。	2	実務・技術者課題分野	有	有

都市内交通+まちづくり	20	まちづくりと総合交通政策	Machizukuri and Integrated Transportation Policy	土井 勉：京都大学大学院工学研究科		doi@ulc.kyoto-u.ac.jp	環境的・社会的・経済的に持続可能な地域の形成や、安全で安心で人々に魅力あるまちの形成の推進、高齢社会を踏まえたまちづくり等において公共交通を重視した交通体系を実現することは極めて重要である。これを実現するためには、快適な歩行空間や自転車・公共交通、さらに自動車を含めた総合的な交通政策と、都市計画やまちづくりのあり方を含めた検討を行うことが不可欠である。本セッションでは、以上の問題意識のもとに活発な議論を行いたい。	1	実務・技術者課題分野	有	無
都市内鉄道	21	今後の都市鉄道における政策・研究課題	Policy and Research Issues of Future Urban Railway Planning	日比野 直彦 政策研究大学院大学	岩倉 成志 芝浦工業大学	hibino@gr-ips.ac.jp	高密度なネットワーク、多頻度運行、相互直通運転等、わが国は世界に誇る都市鉄道システムを有している。それゆえに、概成されたと思われるが、慢性的な列車遅延、都心整備に伴う鉄道駅における混雑、空港アクセス対応等といった新たな課題が発生している。また、今後確実に増加する高齢者への対応も検討すべき課題である。本セッションは、今後15～20年程度を見据え、都市鉄道政策として取り組むべき課題を明らかにするとともに、それらの効果を評価・検証するための調査方法、分析方法等について多様な視点から議論することを目的とする。	2	集中討議	有	無
都市内物流	22	安心安全・快適な社会を支える都市物流システム	Urban logistics systems for supporting safe and secured and comfortable society	谷口栄一、京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻教授	兵藤哲郎：東京海洋大学教授	taniguchi@kiban.kuciv.kyoto-u.ac.jp	都市物流システムについては、効率性を高めることを主眼に研究が行われてきた。特に物流システムのコスト削減が大きな課題であり、環境負荷の低減という問題にも取り組んできた。本企画においては、さらに自然災害や人的災害によるリスク、平常時の人間の健康に関するリスクを考慮した都市物流システムについての研究発表を行い、議論を行いたい。都市物流システムにおける複数のステークホルダーの行動を考慮した都市物流に関するモデル開発が盛んになってきており、この分野についても焦点をあてる。健康に関しては、病院や医療機関への救急車による患者の搬送、情報システムの活用、移動が困難な高齢者への物資の配送やサービスの提供なども重要な課題として取り上げたい。	1	速報的・萌芽的	有	無
土地利用モデル	23	土地利用マイクロシミュレーション	Land-use micro-simulation	鈴木 温（名城大学）		atsuzuki@meijo-u.ac.jp	欧米ではすでに実用化されているマイクロシミュレーション型の土地利用モデルは、近年、我が国でも積極的に研究が進められてきており、実務での活用が期待されている。これまでにマイクロデータの生成・評価方法、人々の立地選択、サーチ活動のモデル化、住宅市場の相対取引メカニズムのモデル化、商業施設の立地・撤退分析等に関する研究が発表されている。そこで、本セッションでは、マイクロシミュレーション型土地利用モデル研究に関するこれまでの一連の研究成果を発表し合い、現時点での研究の到達点の確認しつつ、改良・改善の方向性、政策評価への適用可能性、今後の検討課題等について広範なディスカッションを行いたい。	2	集中討議	有	無
統計手法	24	空間統計学・空間計量経済学を用いた空間データ解析	Spatial Data Analysis: Spatial Statistics and Spatial Econometrics	堤 盛人（筑波大学）		tsutsumi@sk.tsukuba.ac.jp	土木計画学における政策分析・予測・評価やそのためのモデリングにおいては、様々な空間データを扱う必要があり、空間データに内在する特質とこれに対する統計学的な面での考慮の必要性に関して、従来からその重要性が認識されてきた。近年、このようなデータを扱う学問分野である空間統計学や空間計量経済学は、実用化に向けて目覚ましい進歩を遂げている。本セッションは、空間データを扱った統計学的なアプローチによる様々な研究を公募し、その最新の研究動向についての情報交換と議論を行うことを目的とする。	2	速報的・萌芽的分野	有	無

都市・地域交通	25	生活交通サービスを支えるしくみと技術	Systems and Technologies for Sustaining Local Transport Services	喜多秀行（神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻）		kita@crystal.kobe-u.ac.jp	公共交通活性化・再生法が施行されて3年が経過し、我が国の多くの自治体で総合連携計画という名の地域公共交通計画が策定されつつある。その過程で、交通計画策定の必要性に対する理解が深まるとともに、有用な計画を策定すべく、新たな取り組みやしくみの提案、そして、調査、分析、計画、運行、運営管理等に関するさまざまな技術が開発されてきた。そこで本企画セッションでは、制度的・技術的・計画論的な観点から新たな取り組みや手法等に関する知見を持ち寄り、理論的・実証的観点からその有効性と今後の方向性を明らかにする。	2	実務・技術者課題分野	有	有
災害	26	総合災害リスクマネジメント	Integrated Disaster Risk Management	高木朗義・岐阜大学	多々納裕一・京都大学	a_takagi@gifu-u.ac.jp	災害は地震や台風などの自然現象を引き金とするが、それが被害を引き起こす過程には人間社会の複雑な営みが介在している。したがって、災害を人間社会の中で発生する社会経済現象として捉え、災害直後や復興期から平常時までの災害対応を計画論的視点から分析し、次の災害に備えていく必要がある。特に近年、災害の社会・経済的な側面の重要性が認識され、災害に対する都市・地域システムの構築、災害復旧・復興計画など、防災に関する土木計画学分野への期待は益々高まっている。本企画では、平常時および災害復興過程における地域を調査・分析し、今後の災害対応に活かす方法論等について討論する。	2	集中討議	有	無
災害	27	災害情報	Disaster Information	畑山満則（京都大学防災研究所）	梶谷義雄（京都大学防災研究所）	hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp	災害時の人間行動は、災害前に蓄積された知識と災害時に知りえた情報が複雑に絡みあった構造になっており、その課題解決には様々な角度からの議論が必要である。災害情報に関しては、地震、津波、水害、土砂災害などに対して災害前のリスクコミュニケーション、防災教育から災害発生時の情報発信手段、タイミング、内容やそれを支援する情報技術に至るまで様々な研究が行われている。本企画では、これらの災害時行動に影響を与える情報を取り扱う研究に焦点を置き、様々な角度からの討議を行うことを目的とする。	2	集中討議	有	無
調査	28	交通まちづくりのための調査と分析手法	Data and Survey Platform for Machizukuri by Transportation Planning	溝上章志（交通まちづくり実践研究小委員会調査体系部会長）・熊本大学	羽藤英二・東京大学	smizo@gpo.kumamoto-u.ac.jp	「まちづくり」のための交通-景観-都市計画などが一体となった総合的な調査体系と個別要素技術の開発を行うことを目的とする。そのために、PT調査のようなアンケート方式に代わる新たな価値創造型の交通実態調査の調査・分析の方法、都市の空間構成や地域資源、移動実態などの総合データプラットフォームのアーキテクチャーなどについての検討を行う。	2	集中討議	有	無
調査	29	交通行動モニタリング	Travel Behavior Monitoring	力石 真・広島大学大学院国際協力研究科	張 峻屹・広島大学大学院国際協力研究科	chikaraishi@hirosuhima-u.ac.jp	交通計画の実現過程においては、施策の実施による人々の交通行動の変化を予測することが求められるが、完全な予測は成し得ない。従って、実際の行動と予測との剥離をモニタリングし、剥離の原因究明や計画案の修正可能性を検討することが求められる。例えば、交通政策実施下において、交通行動が期待した通りに変化した場合でも、時間とともに政策実施前の状態に戻ってしまう可能性がある（リバウンド効果）。本セッションは、行動変化のモニタリングに向けたトラカン・ETC・公共交通ICデータの活用方法や、行動変化を捉えるための調査・モデリング手法などの研究事例を広く募集する。	2	速報的・萌芽	有	無

調査	30	道路交通データの収集・分析の新たな展開	New development of collection and analysis of road traffic data	上坂克巳 国土技術政策総合研究所	門間俊幸、橋本浩良 国土技術政策総合研究所	uesaka-k92d8@nilim.go.jp	コスト削減への強い社会的要請の中、渋滞などの課題の大きな箇所を厳選し、重点的に対策を講じるためには、従来の5年に1度の道路交通センサスだけでは必要なデータが取得できない。時々刻々変動する交通量や旅行速度を、全国の幹線道路を網羅しつつ効率的に把握するためには、道路交通調査・分析のあり方の抜本的な見直しが必要とされている。本セッションでは、交通量常時観測データ、プローブ旅行時間データ、ETCによるODデータ等の収集方法及びそれらのデータを用いて道路交通の状況把握、施策の立案及び対策効果の分析を行うための手法について、特に実務上の課題解決の観点から討議する。	2	実務・技術者課題分野	有	無
調査+交通計画	31	沈黙の交通計画論	Silence and Transportation Planning	久保田尚・埼玉大学	藤井 聡・京都大学	hisashi@p.civil.saitama-u.ac.jp	交通計画における「沈黙」について考える3年目であり、いくつかの論点が想定される。一つは、社会調査における調査不能者の問題である。PT調査等の回答率激減が深刻な問題になりつつある。郵送方式等が試みられているが、その課題や解決策を議論したい。二つ目は、沈黙のらせん問題である。これまでの研究により、少数派が沈黙する構図だけでなく、「少数の激しい反対層」の存在に対して多数派が沈黙していく構図の存在も明らかになってきた。日本人の特性を踏まえた「沈黙」について議論を深めたい。三つ目は「物語」である。沈黙する市民も、実は深い物語を有しているはずであり、それを読み解くことで地域の事情を深く理解することに繋がる。こうした期待に基づき、全く新しいアプローチを試みる。これらを中心として、さらに広く議論していきたい。	1	速報的・萌芽的分野、または実務・技術者課題分野	有	無
ネットワーク	32	交通ネットワーク解析の潮流	Trends in Transport Network Analysis	井料隆雅・神戸大学	中山晶一郎・金沢大学 円山琢也・熊本大学	_iryo@kobe-u.ac.jp	交通ネットワーク解析理論のトレンドをとらえつつ、その新たな進化を展望することを、セッションでの研究報告および議論を通じて行う。交通ネットワークを解析する数学的手法は進化をつづけており、その潮流をとらえながら研究を行うことは新たな方法論を効果的に構築する際に有効であろう。本セッションでは、内外における交通ネットワーク解析の最近の研究、あるいは他分野で関連のある既存研究を活用しつつ新たな知見を示す理論研究の報告を広く公募する。セッションにおける発表および議論を通じ、今後の交通ネットワーク解析の方向性について各参加者がそれぞれの展望を持てるようになることを期待したい。	2	集中討議分野	有	有
ネットワーク+信頼性	33	交通ネットワーク信頼性解析のパーспекティブ	Perspectives of Transport Network Reliability Analysis	宇野伸宏・京都大学経営管理研究部	倉内文孝・岐阜大学工学部	kurauchi@gifu-u.ac.jp	従来の交通サービスの量的な充実のみならず、サービスの質を評価し向上させることの重要性に関する認識が広がっており、旅行時間信頼性評価の実務展開のニーズが高まっている。過去4年間連続して企画していた一連の交通ネットワーク信頼性に関する企画セッションでの議論を踏まえ、本セッションにおいては、現在までの成果をとりまとめるとともに、今後の展開（パーспекティブ）について議論する。	2	実務・技術者課題分野	有	有
都市間交通	34	都市間旅客交通の調査・分析・評価手法の開発	Development of survey, analysis and evaluation technique for the inter-city passenger transportation	塚井誠人・広島大学	奥村誠・東北大学	mtukai@hiroshima-u.ac.jp	都市間の旅客交通には交通発生の日常性、旅客の情報の不完備性、需要薄によってサービス供給が制約される、特に複数機関が統合利用される経路における遅延や欠航リスクなどの、都市間交通ネットワークに固有の特性があり、都市圏内の交通行動分析・計画の方法論を、そのまま適用できない。本セッションでは、全国幹線旅客純流動調査において課題となっているトリップ発生頻度に関して周辺統計情報を活用したサンプル調査に対する適切な拡大係数の付与方法、乗り継ぎ・乗り換えを伴う交通行動など、都市間旅客交通に固有の特性を考慮した調査方法・分析方法の開発に関わる研究を募集し、討議を行う。	2	速報的・萌芽的分野	有	有

都市 間交 通	35	高速鉄道整備政策 ~世界の潮流を踏まえて~	High speed railway policy - Considering the current world trend -	中川 大 京都大学大学院工学研究科 教授	—	nakagawa@urban.kuciv.kyoto-u.ac.jp	世界に先駆けて高速鉄道整備を進めてきたわが国であるが、1970年代に計画された整備新幹線が、長い年月を経てもなお一部区間の開業に留まるなど、近年急速に整備を進める多くの国と比較して立ち遅れ気味となってきた。しかしながら、東北新幹線の新青森延伸、九州新幹線鹿児島ルート全線開業など、ようやく一定の成果がみられる状況となり、今後に向けての展開を議論すべき時期を迎えている。そこで本企画テーマでは、高速鉄道整備の世界的潮流も踏まえながら、今後のわが国の高速鉄道整備の新たな展開に向けて、地域経済への寄与等の効果計測、利用者便益等の直接便益の算出、財源・制度・整備スキームのあり方などについての研究を発表・議論する。	1	集中討議	有	無
航空	36	アジア航空輸送の曙：自由化とその将来	The Dawn of aviation transport in Asia: deregulation and beyond	竹林幹雄（神戸大学）	花岡伸也（東京工業大学）	takebaya@kobe-u.ac.jp	アジア発着航空貨客輸送市場は、かつてないほどのスピードで自由化が進行している。例えば、ASEAN諸国での国内輸送市場の規制緩和は、LCCの台頭の起爆剤となり、さらに国際輸送市場でも自由化を進める方針を打ち出している。北東アジアにおいても韓国を筆頭に自由化が進んでいる。わが国でも、米国とのオープンスカイ批准、羽田の再国際化など新たな局面を迎えた反面、羽田・成田など複数空港の運営、空港民営化、地方路線・空港のあり方など検討すべき課題は山積している。本企画セッションでは、自由化が進むアジア航空貨客輸送市場を対象として、市場の現状、自由化の影響、さらにはわが国の政策の方向性について議論を行う。	2	集中討議 分野	有	無
ア セ ッ ト マ ネ ジ メ ン ト	37	アセットメトリクスと意思決定	Assetmetrics and Decision Making	小林潔司（京都大学）	貝戸清之（大阪大学）	kaito@ga.eng.osaka-u.ac.jp	アセットマネジメント分野においては、目視点検データに基づく劣化予測技術やライフサイクル費用評価技術が飛躍的に進展しており、先端技術がアセットメトリクスとして体系化されつつある。特に、劣化予測に関しては、ベンチマーク分析や隠れマルコフ劣化モデルなど、単なるライフサイクル費用算出のための劣化予測にとどまらず、様々な意思決定問題への適用が可能となってきた。本セッションでは、いくつかの適用事例に関する報告を行い、それらをもとに適用の高度化や深度化について集中的に議論し、アセットマネジメントの新しい展開を模索する。また、昨年を引き続き、技術の標準化や海外戦略に関する議論も行う予定である。	2	集中討議	有	無
道 路 計 画	38	道路の計画設計と交通運用の新たな試み	The new method on road planning, design and traffic operation	下川澄雄 （財）国土技術研究センター 技術・調達政策グループ	内海泰輔 （株）長大	s.shimokawa@jice.or.jp	日本の道路交通においては、階層区分に応じた道路交通サービスの提供がなされていない状況にある。そのため、道路の持つ機能を明確にし、性能を適切に発揮できるように計画・設計していく必要がある。一方で、昨今では、地域の実状に合った柔軟性のある道路計画・設計への見直しのための議論も活発に行われている。これらに対し、本セッションでは、道路の機能を確保し、安全で交通性能向上に寄与する計画設計や交通運用手法について議論する。関連の論文を広く公募し、事例報告も含め実務からの投稿を特に歓迎する。	2	集中討議	有	無
交 通 計 画	39	平面交差点の計画・設計・運用制御	Planning, Design and Control of at-grade intersections	鈴木弘司・名古屋工業大学		suzuki.koji@nitech.ac.jp	平面交差点は、交通容量上、安全上の要衝であり、道路の性能に大きな影響を及ぼすため、適切に計画・設計・運用制御することが求められる。これまで、信号・無信号交差点でのドライバー・横断者の挙動解析、飽和交通流率の推定、交通事故要因分析など、容量、安全面に関する数多くの検討がなされてきている。本セッションでは、これらの研究テーマのみならず、平面交差点の性能を向上させるための構造・運用形態に関する様々な調査事例や研究成果をもとに、これからの平面交差点の計画・設計・運用制御のあり方について幅広く議論したい。	2	集中討議 分野	有	有

救急医療	40	地域医療支援のための救急搬送（救急医療・救急搬送）	First aid transportation to support local medical care (First aid medical care / first aid transportation)	高山純一・金沢大学・理工研究域・環境デザイン学系	二神透・愛媛大学	takayama@t.kanazawa-u.ac.jp	人口減少・高齢化など、地方を取り巻く社会環境の悪化が間近に迫っており、特に「過疎地域の地域医療」は医者不足や高次救急医療機関の都市集中により、ますます課題が大きくなってきている。その一方で、高速道路等の整備を含め、社会インフラの整備が進む中で、救急医療を取り巻く環境も変化してきており、今後、どのように地域医療の支援を検討していけばよいのか、不明である。ここでは、地域医療支援のための方法論とその課題について検討を行う。	2	速報的・萌芽的分野	有	有
冬季道路	41	持続可能な冬期道路サービス維持・向上のための計画と評価	Planning and Evaluation for Maintaining and Development of Sustainable Winter Road Service	浅野基樹・（独法）土木研究所寒地土木研究所	萩原 亨・北海道大学 高橋 清・北見工業大学 浜岡秀勝・秋田大学 松澤 勝・（独法）土木研究所寒地土木研究所	m-asano@eri.go.jp	90年施行のスパイクタイヤ規制法は粉じんの発生を防止するという生活環境保全目的で施行された。一方、近年、道路維持費の削減や凍結防止剤の副次的環境負荷の懸念から除雪や凍結防止剤散布量の冬期道路管理の水準が見直されている。また、気象変化の激化、道路維持事業費の削減、高齢化社会の進展や冬季観光の充実など冬期道路に関わる状況の変化も大きい。そこで、本セッションでは、冬期における道路の機能を道路利用者へ提供するサービスについて、道路管理者ばかりではなく他の機関や道路利用者の活動も含め、その維持・向上に係る施策の計画と評価手法について発表し、よりの確で望ましい冬期道路サービスの提供について討議する。	1	実務・技術者課題分野	有	無
市民生活	42	QOLと市民生活行動	QOL and Citizens' Life Behaviors	張 峻屹・広島大学大学院国際協力研究		zjy@hiroshima-u.ac.jp	市民生活行動（就業、居住、移動、子育て・介護、教育、買物や余暇など）は短期や長期的な時間スケールにおいて意思決定され、個人や世帯のニーズを反映し、多様な文脈や制約の影響を受け、ソーシャルネットワークとの関係のなかで、いろいろな場所で行われ、その結果、市民のQOLが影響される。市民生活行動間には密接な関連性があることを考えると、市民のQOLを向上させるため、個々の行動を切り分けて個別に政策を講じることは望ましくない。これは、市民生活を支援・誘導するのに、縦割りではなく、部門横断型まちづくり政策の必要性を裏づける。そこで、本セッションは、QOLと市民生活行動について、学際的な視点からの研究事例、部門横断的な視点からの実務的な取り組み事例などを募集する。	2	速報的・萌芽的分野	有	無
子育て	43	子育てしやすいまちづくり	Accessible Cities and Transportation for Childrearing	大森宣暁 東京大学	谷口綾子 筑波大学	nobuaki@ut.t.u-tokyo.ac.jp	少子高齢社会に直面している我が国において、子育て中の親の社会参加を支援し、少子化に歯止めをかけるためにも、妊婦、乳幼児・児童を持つ子育て中の親および子供が、安全・安心・快適に外出活動に参加できる環境を整備することの重要性が増している。本セッションは、乳幼児・児童を持つ子育て中の親および子供が、外出活動を含めた日常生活活動を行う上で直面するバリアに着目し、そのバリアを緩和し社会参加を支援するために有効な「子育てしやすいまちづくり」に向けた施策を、都市・交通・福祉など幅広い視点から総合的に議論する場としたい。	2	速報的・萌芽的分野	有	無
途上国	44	途上国の社会基盤計画	Infrastructure planning in developing countries	加藤浩徳（東京大学）	—	kato@civil.t.u-tokyo.ac.jp	多くの途上国では、急激な都市化が進行する一方で、依然として、社会基盤施設の整備が不十分であるため、生産性低下による経済成長阻害が懸念されるとともに、生活環境の悪化、貧困の拡大、災害などへの脆弱性などが深刻な問題となっている。そこで、本セッションは、途上国の社会基盤に関わる諸問題を、土木計画学の観点から調査・分析・検討する論文を募集し、問題解決の方策や今後の望ましい方向性について、広く議論することを目的とする。なお、本セッションでは、英語論文のみを受け付け、また発表および議論も英語の使用を原則とする。	2	実務・技術者課題分野	有	無

東アジア	45	東アジア・環太平洋地域の地域・経済統合と物流政策	Regional/Economic Integration and Logistics Policy in Eastern Asia and the Pacific	柴崎隆一（国土技術政策総合研究所）	石黒一彦（神戸大学）	shibasaki-r92y2@y.sk.nilim.go.jp	最近紙面を賑わす東アジア共同体や環太平洋経済協定（TPP）といった議論の行方に関わらず、我が国を含む東アジア・環太平洋地域において、実質的な地域・経済統合が進展しつつあることは疑いない。主としてこのような文脈の中で、我が国および周辺地域における貿易や国際物流に関する現状・課題、また取り得る政策・戦略やその影響などについて集中的に議論を行う。なお、経済統合分析を含む国際経済分野の研究、および内貿やアジア以外に視点を置いた国際物流の研究などについても、現代的な課題に取り組んだものであれば広く募集したい。	2	集中討議	有	無
公共政策	46	公共政策のための物語研究	Narrative research for public	藤井 聡（京都大学 大学院工学研究科）	—	fujii@trans.kuciv.kyoto-u.ac.jp	公共政策において合理性は大いに尊重されてきた。一方で近年では、まちづくりやコミュニケーション施策等の、必ずしも「合理性」だけでは捉えきれない諸実践が広範に実施されつつある。こうした流れを公共政策論の中にも的確に位置づけていくためには、合理性とは異なる新しい計画原理の導入が不可欠である。そして新しい計画原理として「物語」は極めて有望な可能性を秘めている。例えば、計画ヴィジョン・基本構想の立案においても、まちづくりや国土づくりの展開においても、計画組織の活性化においても、「物語」は極めて重大な役割を担う。本企画セッションでは、そうした物語の可能性を巡る理論的、実践的研究報告を募集する。	2	速報的・萌芽的分野	有	無
ITS	47	地域ITSの展開	Evolution of Regional ITS	金澤 文彦・国土交通省 国土技術政策総合研究所	松本 修一・慶應義塾大学 先端研究センター 片岡 源宗・高知工科大学 地域連携機構 連携研究センター 地域ITS社会研究室	kanazawa-f87bh@nilim.go.jp	ETC、VICSやカーナビなどの普及、IT技術と道路との融合などにより、ITSは先進技術の検討段階から社会に浸透させるための新たな段階となるべき転換期を迎えている。このようななか、今後は各地域における固有のニーズに基づくITSサービスや技術の適応、現地での実導入が必要である。そのために本セッションでは、国内各地域で行われている地域ITSの実務的または実用的な事例研究や取り組みを取り上げ、それぞれの地方に適応したITS技術のあり方、およびその活用方法などについての検討なども行う。また地域ITSを実践して行く上での今後の展開方向を討議する。	2	実務・技術者課題分野	有	有
教育	48	モビリティ・マネジメント教育	Mobility Management Education	松村暢彦・大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻准教授	—	matumura@mit.eng.osaka-u.ac.jp	モビリティ・マネジメント教育は、土木計画学で進められてきたMMと教育学、特に社会科学におけるシティズンシップ教育の両面から注目をあびている。特に、平成23年度よりシティズンシップ教育的な視点が強調されている新学習指導要領に基づく新教育課程が本格的にスタートする格好の時期にあたる。そこで、モビリティ・マネジメント教育に関連する教育アプローチの理論的な探究や効果的な教育プログラム・教材の共有、土木計画者・技術者として学校教育への関わり合い方や地域と学校教育の協働の仕組みの議論など理論的な研究から実践的な事例、研究まで幅広く募集し、今後のモビリティ・マネジメント教育の方向性を議論する。	1	実務・技術者課題分野	有	有
景観	49	地域の暮らしを活かした景観まちづくりを考える	Planning & management of visual environment focusing on regional life and culture	佐々木葉（早稲田大学）	岡田智秀（日本大学）／田中尚人（熊本大学）	yoh@waseda.jp	日本の人口の大半が住まうごく一般的な地域で景観計画を行う場合、その地域の個性をいかに見出すかが重要である。しかし、建物や構造物の色・形態等の操作ばかりではその地域ならではの魅力を発揮できない。重要なのは、その地域の「暮らしぶり」を、いかに魅力的に視覚化するかである。ここでいう「暮らしぶり」とは、その土地の生業・産業や生活を意味し、それらを持続たらしめるコミュニティも重要になってくる。そこで当セッションでは、地域の魅力ある暮らしの風景を持続させるための方途を議論する。キーワードとしては、景観計画、暮らしの風景、文化的景観、景観の生成システム、景観体験などがあげられよう。	2	集中討議	有	無

観光	50	観光研究	Tourism Researches	岡本直久 筑波大学大学院システム情報工学研究科	日比野直彦 政策研究大学院大学	okamoto@sk.tsukuba.ac.jp	わが国の成長産業として観光が位置づけられ、観光に対する国の期待が高まっている。と同時に土木計画学分野でも多様なアプローチによる観光研究が展開されている。その対象は、観光地、観光交通、観光行動分析、観光政策・行政、インバウンド、アウトバウンド等極めて多様化している。本セッションでは、広く観光に関する研究を取り上げ、多様な観点から今後取り組むべき観光研究について議論を行うことを目的とする。	2	集中討議	有	無
----	----	------	--------------------	-------------------------	-----------------	--	--	---	------	---	---

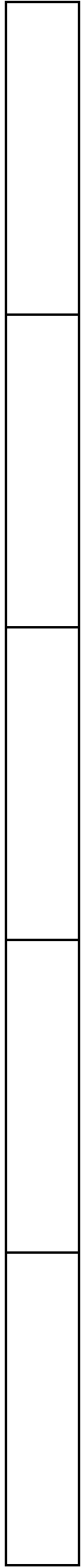
備考

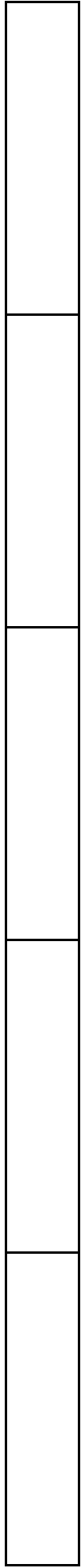
--

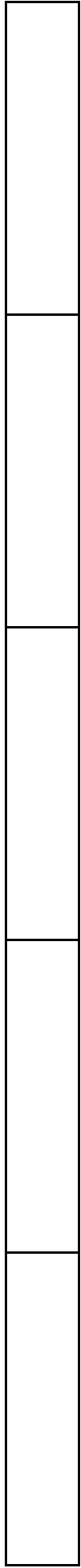
--

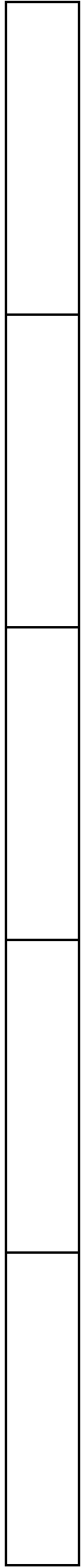
--

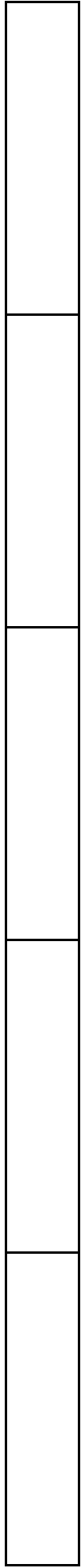
--

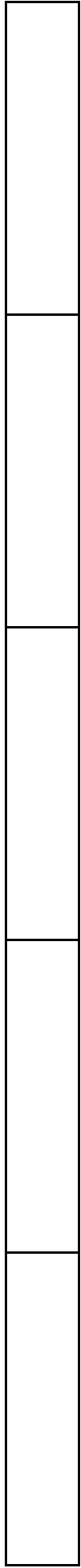


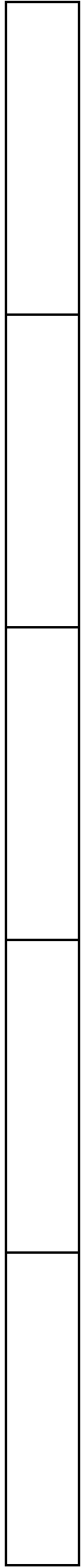


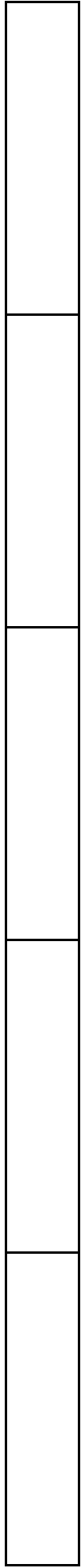


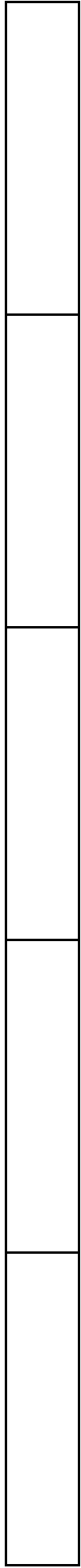


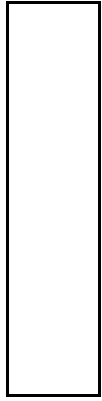












2セッション希望が3
6, 1
セッション希望が
13. 未
回答が1